

てゐた關係もあつて、最初から舊知の如き交を結び、パリ滞在中の半年間、殆んど毎週往來を重ねました。その間に於ける彼の友情については、深い感銘を覚えて居ります。貴重なる敦煌文書の如きも、多忙な時間を割いて自から國立圖書館に出かけて、いつでも閲覽の出来る便宜を計つてくれたのみならず、未整理でまだ彼の手許に在つたものは、どれでも希望するものを貸與して持ち歸ることを承知してくれました。かの敦煌遺書に於て初めて原本の寫眞を世に傳へた慧超の往五天竺國傳の如きも、かやうにして借覽して私自身寫眞したもので、これに先立つて羅振玉氏が北京で一應寫字生に寫させたものが印行されてゐたのでありましたが、誤寫が多くて據り難い本であり、藤田博士の同書の箋釋はその爲に氣の毒な誤に陥つてゐる點が少くないことは、曾て私の指摘したところであります。

前に述べたやうに、彼は幾多すぐれた才能を有して居りましたが、その外にもなほ非凡の記憶力と絶倫の精力とを有してゐたことを認めなければなりません。之に加ふるにその書齋の有様を見ると讀過した材料を精しくカードに取り上げ、自からこれを幾箱かのカードケースに丹念に整頓してゐました。こゝに於てか研究に當つて資料の引用等、恰かも掌を指す如きものがあつたのであり、精細を極めた彼の論述の續々發表されたことも、誠に道理であると肯かれる次第であります。

今次大戦中、その消息は不斷に懸念してゐたのでありましたが、既に恰かも二年の前に鬼籍に入つてゐたのであります。まだ大して高齢といふ程ではなく、吾々はその俊敏と健康とに依頼して、なほ多くの名山の業を期待してゐたのでありましたが、眞に痛恨の至に堪へませぬ。今日日本會最初の講演會に當りまして、彼の學業を讀へ、ま